

多摩美術大学美術館コレクション展

生誕120年記念

福沢一郎

— 語りて屈さぬ絵画の地平 —



「最後の晩餐の一つの具方」 1986年 アクリル、キャンバス／「幽霊のレオナルド・ダヴィンチ」 1986年 アクリル、キャンバス／「むざわいの都パビロンの滅亡」ヨハネの黙示録から」 1986年 アクリル、キャンバス

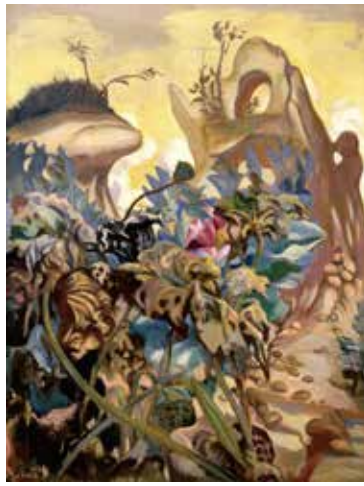
2018年 12月 15日(土) — 2019年 2月 24日(日)

休館日◎火曜日・年末年始(12月25日[火]～1月5日[土])

多摩美術大学美術館



「黒い幻想（ニューヨークにて）」 1963年 油彩、キャンバス



「花」 1938年 油彩、キャンバス



「スペイン・ラプソディー」 1955年 油彩、キャンバス

関連イベント

●シンポジウム「121年目の福沢一郎」

2019年1月19日（土）

13:30～15:30

モデレーター:

伊藤佳之（福沢一郎記念館）

パネラー:

大谷省吾（東京国立近代美術館）

谷口英理（国立新美術館）

弘中智子（板橋区立美術館）

小林宏道（多摩美術大学美術館）

●学芸員によるギャラリートーク

2018年12月22日（土）

2019年2月2日（土）

2019年2月23日（土）

15:00～16:00

参加費無料（ただし、入館料が必要です）

福沢一郎（1898～1992）は群馬県北甘楽郡富岡町（現在の富岡市）に生まれました。1918年（大正7）旧制第二高等学校を卒業した後、東京帝国大学（現在の東京大学）文学部に進学しますが、彫刻家朝倉文夫に師事します。そして1923年（大正12）の関東大震災を機にフランス留学を思い立ち1924年（大正13）から1931年（昭和6）までの7年間をパリで過ごしました。1924年（大正13）9月にはアンドレ・ブルトンが「シュルレアリスム宣言」を発表し、福沢も大きく刺激を受けます。福沢はパリ到着後、彫刻から絵画へ制作が変化し、サロン・ドートンヌ展への出品、1930年協会展への参加、第16回二科展や第1回独立美術協会展の特別陳列など精力的に創作活動を展開しました。帰国後、1939年（昭和14）に美術文化協会を結成。そして、旺盛な活動の最中であつた1941年（昭和16）4月5日に治安維持法違反の疑いにより6ヶ月間逮捕拘束されます。しかし、戦後はすぐに持ち前の行動力を軌道に乗せ、盛んな活動と創作を国内外に示し続け、無所属となつた1957年（昭和32）以降も人間や社会をテーマに旺盛な制作活動を展開しました。また、主題を如何に表現するかということを追求め続け、その一貫した制作姿勢と豊かな構想力に裏打ちされた作品は日本の画壇に異彩を放つとともに、常に美術界のリーダーとして活躍しました。これらの功績が高く評価され、1978年（昭和53）に文化功労者、1991年（平成3）には文化勲章を受章しました。また、多摩美術大学や女子美術大学では長期にわたつて学生を指導し、教育者としても大きな足跡を残しています。本展では福沢一郎の生涯120年を記念して、パリ時代から晩年までの多摩美術大学が所蔵する全作品を展示いたします。



「魂の話」 1931年 油彩、キャンバス



「レダ」 1977年 アクリル、キャンバス



「邪馬台国闘争」 1981年 アクリル、キャンバス

多摩美術大学美術館

主催：多摩美術大学美術館 協力：（財）福沢一郎記念財団

休館日◎火曜日・年末年始（12月25日〔火〕～1月5日〔土〕）

開館時間◎10:00～18:00（入館は17:30まで）

入館料◎一般300円（200円）大・高校生200円（100円）

※（ ）は20名以上の団体料金 ※障がい者および付添者、中学生以下は無料

〒206-0033 東京都多摩市落合1-33-1 電話◎042-357-1251 <http://www.tamabi.ac.jp/museum/>

交通◎多摩センター駅 徒歩7分（京王相模原線・小田急多摩線・多摩モノレール）

